

# 理科 授業改善推進プラン

## 1 学力効果測定結果

- ・過去3年間の結果は、全学年目標値をおおよそ下回る結果となっている。どの年度も特に第5学年の結果が目標値から離れている。
- ・第5学年の調査内容は、第4学年時に学習した内容であるため、第4学年の学習内容の定着度が特に十分でないことがうかがえる。
- ・学年ごとに育成が求められる問題解決の力は、問題作り、仮説の設定、実験計画立案、考察である。
- ・問題解決の力の育成は重要であるが、まず知識・技能をきちんと定着させ、考えるための基盤を作る必要がある。

## 2 児童の実態及び学習効果測定の結果分析（課題）

第1学年	第2学年	第3学年	第4学年	第5学年	第6学年
		<ul style="list-style-type: none"> <li>・基本的な用語が十分に身に付いていない。例えば、「葉・茎・根」、「頭、胸、腹」などである。</li> <li>・実験や観察を通して得た結果から、考察すること、新たな問題を設定することが苦手な傾向にある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・基本的な用語についての理解が不足している。・実験を通しての結果についての理解が不足している。特に光の性質や磁石と電気の性質、物の重さについての理解が不十分である。</li> <li>・全体的に用語や説明する際の言葉が理解することができていない。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・実験や観察には意欲的に取り組むが、その後に、知識として定着させることが不十分である。</li> <li>・グラフや表を活用したり、読み取ったりすることが不十分である。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・受粉と結実・物の溶け方で質量保存について・顕微鏡の使い方の手順についての理解が不十分である。</li> <li>・調べる目的に応じた条件制御の判断が苦手である。基本的用語・結果についての理解が身に付いていない。</li> </ul>

## 3 課題や授業の改善策

	第1学年	第2学年	第3学年	第4学年	第5学年	第6学年
知識・技能			<ul style="list-style-type: none"> <li>・教科書の徹底活用</li> <li>・実験や観察を通して得た経験と、習得すべき知識とを結び付けて学べるようにする。具体的には、実験・観察後のまとめを十分に時間をとって行う、教科書や映像教材を活用し得た経験を確かな知識としていくなどに取り組んでいく。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教科書の徹底活用</li> <li>・実験の結果や分かったことについて、キーワードを使ってまとめていく学習活動を設定する。</li> <li>・学習した内容の定着を確実にするために、定期的にミニテストを行ったり、家庭学習で復習プリントに取り組んだりする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教科書の徹底活用</li> <li>・表やグラフなどに実験結果をまとめたり、資料から必要な情報を読み取ったりする技能を養う活動を増やす。</li> <li>・理解の度合いを確かめることができるように、振り返りの時間を設け、用語の定着をはかる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教科書の徹底活用</li> <li>・実験では、考え方である比較、関係付け、条件制御、多面的思考することの意味をよく考えさせて実験し、考察はキーワードを使いながら自分の言葉でまとめられるようにする。</li> <li>・VTRやデジタルコンテンツを活用し、定着を図る。</li> <li>・単元の終わりには、用語やまとめを再度確認する。</li> </ul>
思考・判断・表現			<ul style="list-style-type: none"> <li>・実験や観察を通して分かったことを日常生活に当てはめて考える学習活動を設定し、そこから差異点や共通点を見だし、新たな問題を見出す力を養うことができるようにする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・実験を通して気付いたことや分かったことをタブレットパソコンや画用紙等にまとめる活動を設定する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・実験や観察を行った後に、実験の過程や結果、考察を児童にとって分かりやすい資料提示をしたり、提示の仕方を工夫したりしていきたい。また、考えを交流する機会を設けていきたい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・実験では、どのようにしたら正確な結果が得られるかをグループ学習などで考えるようにする。ミニボードなどを活用し、まとめる活動を設定する。</li> </ul>
主体的に学習に取り組む態度			<ul style="list-style-type: none"> <li>・身近な話題と学習内容を結び付け、学習に取り組む目的をもてるようにする。</li> <li>・学習を振り返る際、相手に説明したり、自分の理解度を振り返ったりする学習活動を設定し、自分自身の学びを自覚できるようにする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・実験を通しての疑問や考えたことについてアウトプットする機会を設ける。必要に応じて、児童の疑問から新たに実験等を行うことで、主体的に学習に取り組めるようにする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・タブレットでの調べ学習の機会を設け、関心をもったことを進んで学習することができるようにする。</li> <li>・学習の過程で、自分の考えを伝えあったり、理解度を振り返ったり、学習感想を書いたりできるようにする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・実生活と関連を意識させ、関心・意欲を高める。</li> <li>・児童の気付きや疑問から課題解決学習に取り組んだり、新たに実験したりして、主体的に取り組めるようにする。</li> </ul>

※太枠内は、特に重視する内容